

苫小牧市長 岩倉博文 様

苫小牧腎友会要望書

苫小牧市におかれましては、日頃より苫小牧腎友会の活動にご理解とご協力を頂き、感謝申し上げます。

先日、海外出張中の市長が入国審査中に倒れられ、一時、心肺停止状態となり、その後、病院へ緊急搬送され、現在も治療中であることについて、臨時放送を通じて知りました。苫小牧腎友会としても、このニュースにはたいへん驚き、会長をはじめとする、多くの会員が心を痛めております。一刻も早い、岩倉市長の回復を願っております。

我々、人工透析患者が、より人間らしく生きる環境を整えるために、4つの項目を請願します。市長さまと関係者の皆さま、市民の皆さまに、更なるご理解を得るための努力をして参りたいと存じますので、検討のほど、宜しくお願い致します。

要望項目

① 2014年度から始まりました、自家用車による年額9,000円の支給を受けられる通院補助は、透析患者の通院の多様性や実態に対応しているものであり、本制度を維持して頂いている事について、心より感謝申し上げます。苫小牧市福祉のまちづくり条例の第13条にて「市は、福祉のまちづくりに関する施策を推進するため、必要な財政上の措置を講じるよう努めるものとする。」とあります。最近では、世界情勢の不安定化等によりガソリンの価格が高騰しています。透析患者の年間の通院回数は156回ほどであり、通院距離を往復で6キロとした場合、直近の価格であるレギュラーガソリンが180円と仮定すると、年間で16万8千円を要します。この額の1割である、1万6,800円の補助額を目安に、自家用車の通院補助額の適正化について再度、検討頂けますよう、お願い申し上げます。

② 臓器移植は透析患者が透析を逃れる唯一の手段です。北海道では現在、573人の腎臓移植希望者（臓器移植ネットワークの公表データ）が待機しています。今年に入ってから10月

までの腎臓移植手術の実績は2件でした。全国と比べ、移植件数が極端に少ないことに加え、北海道の待機人数は他の都道府県に比べ多いため、移植実施までの待機年数が平均20年以上と、たいへん長い状況が続いています。この問題に対し、苫小牧腎友会では、港まつりにて、保険証や免許証の裏に意思表示の記載をお願いする声掛け活動を行なっております。できるだけ多くの方に臓器移植の現状を知って頂くために、何らかの手段によって、移植の現状について広報して頂きますよう、検討のほど、お願い致します。

③ 昨年度は、iPS細胞研究の成果を市民へ啓蒙するための講演会を実施して頂きました。このことについて、会を代表して、心から感謝申し上げます。iPS細胞による再生医療は、我々が透析から免れる有力な手段のひとつであることから、苫小牧腎友会としては、今後も京都大学のiPS細胞研究を応援し続ける所存です。苫小牧市におかれましても、研究活動を下支えするような広報活動をお願いしたく存じます。

④ 苫小牧市の福祉のまちづくり条例第 11 条には「市は、高齢者、障害者等に関し、災害時における安全性を確保するため必要な措置を講じるよう務めるものとする。」とあります。災害対策の一環として、災害時の要支援者の確認と名簿作成の活動をして頂いていることについて感謝申し上げます。要支援者を把握することは、災害対策の第一歩として意義があることで、今後も本活動を継続して頂けるよう、お願い申し上げます。

私達の透析には、透析設備とスタッフ、透析機械を動かす電力を得るための予備の発電機に加え、1回の透析につき1人あたり120Lと、大量の浄化された水が必要です。透析を行うには、これらの確保が必須です。令和2年の要望書提出の際に、市内の透析施設の代表者による会議が行われたと聞きました。今年度の代表者会議の開催状況や、会議の結果等について情報公開をして頂けますよう、お願い致します。

令和5年11月24日

苫小牧市明德町4丁目9-3

錦岡宿舎305

苫小牧腎友会 会長 工藤彰洋